

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和6年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	① 作成日	令和7年 4月20日	
②法人・団体名	袋井寺子屋		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	静岡県袋井市方丈6-4-3		
④責任者氏名	戸田孝	(役職名等)	寺子屋運営責任者
⑤担当者氏名	角川れい子	(役職名等)	連絡・会計係

【奨学活動の概要】	⑥助成交付決定番号	R06-036	⑦助成金額	30万円	⑧申請カテゴリー	A
⑨奨学活動名	袋井寺子屋（袋井市学習支援団体）					
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	袋井市教育会館 静岡県袋井市新屋1丁目2-1					

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

- ・ 地域学校協働活動の一つの事業として実施をし、地域の方のやる気と熱意で立ち上げ実施をすることができた。参加希望を出した生徒は、全校生徒の10パーセントにのぼり、学習に対して不安を感じたり、塾には行かせられない等の家庭の経済面での不安を抱えている家庭が多いことを実感した。1クラス（1学年）30人を超える日もあり、予想より教室や教材などが必要となったが、教育委員会などの協力を得て、最後までやり遂げることができた。
- ・ 国語・数学・英語の3教科を学年ごと50分ずつ教師が授業を行う形式で実施をした。教師の経験がある人が多いため授業に関しては大変わかりやすく子供たちの疑問に沿って個々に対応することができた。できるだけ1クラスに2人の講師がつけるよう互いに協力し合って運営をした。
- ・ 学習方法のわからない生徒が多く、学校での取り組みについての生徒の本音が聞け、一人一人の解決策についてアドバイスをしたり、教材を提示したりすることができた。
- ・ 保護者の子供の学習に対する不安が大きく、保護者の寺子屋に対する期待を受け止め授業を進めることの大切さを感じた。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	96	20	1920	年間実施日 37日 授業時間 111時間
高校生等				
大学生等				
学習支援員等	11	35	385	
その他				
合 計			2250	

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：

法人・団体名：袋井寺子屋（袋井市学習支援団体）

作成者 氏名：角川れい子

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

- ・ 地域学校協働活動のひとつとして、子供たちの学習を地域でお手伝いをしようとして発足をした。
- ・ 生徒は無料で、講師はボランティアである。
- ・ 塾に行きたくてもいけない生徒や、つまずきがありなかなか質問ができない生徒など問題を抱える生徒に寄り添い一緒に解決を図ろうとすることが目的
- ・ 国語・数学・英語の 3 教科を学年ごとに講師が 50 分の授業を行う。
- ・ できるだけ 2 人以上の教師が 1 教室につき、複数の目で子供たちを見ていき、習熟度に応じてアドバイスをする。数学などは習熟度に合わせて教材を変えるなど工夫をし、その生徒に合い、理解を早める工夫をした。

① 紹介と勧誘

学区の小学校 6 年生に寺子屋の地チラシを配布、公民館等にもチラシを置いてもらうよう依頼
中学校に協力を依頼し、学校の配信ツールを使って保護者へ紹介し、QR コードにより申し込みを
してもらう。

② 4 月 保護者説明会

寺子屋の決まりや駐車場・保険等のお願いを保護者とともに確認をした。参加人数は生徒 60 人
全体で 120 名あまりの参加者



③ 年間実施計画

月	日	月	日	月	日
4月	8日	9月	2日	1月	6日
	15日		9日		20日
5月	13日		30日		27日
	20日	10月	7日	2月	3日
	27日		21日		10日
6月	10日		28日		17日
	17日	11月	11日	3月	3日
	24日		18日		10日 1.2年
7月	1日		25日		17日 1.2年
	8日	12月	2日		24日 1.2年
	22日		9日		
8月	5日		16日		
	19日		23日		
	26日				

④ 時間割と担当

時間	1年	2年	3年
15:50~16:00	全員で準備		
16:00~16:50	国語	国語	英語
16:50~17:00	休憩		
17:00~17:50	数学	英語	国語
17:50~18:00	休憩		
18:00~18:50	英語	数学	数学
18:50~19:00	全員で片付け		

⑤ 参加生徒数（のべ人数）

1年 40人
2年 26人
3年 30人

途中入塾、退塾性と含む

⑥ 講師 原則1学年1教科の担当だったが、途中で変更になることがあり2学年を担当した講師もあった。

国語 のべ3名
英語 のべ4名
数学 のべ4名

⑦ 保険

団体保険加入
子供たちからは年間500円を集金し団体保険へ加入をした。
特に事故やけがなどは発生しなかった。

⑧ 協力いただいた関係者

袋井中学校 及び学区の小学校5校 袋井市コミュニティーセンター
袋井市教育委員会、袋井市役所、袋井市協働まちづくりセンター「ふらっと」

⑨ 地域やボランティア活動との連携

袋井中学校地域学校協働活動の一つとしての活動であり、講師は地域のボランティアである。中学校や高校教員経験者・大学教員・地域の賛同して下さった方などで構成される。

子供たちは袋井中学校の子供を中心として、他中学校の生徒も参加した。

⑩ 購入した器材や物品

コピー用紙 プリンターのインク



3 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性

① 本活動から得られたもの

始める前にはこんなに多くの生徒の参加があるとは思ってもみなかった。この参加者の多い理由を考えてみると、

- ・ 経済的な理由で塾に通わせることができない家庭が多い。
- ・ 生徒の帰宅後の生活が心配なため、寺子屋へ行って勉強をさせたいと願う親が多い。
- ・ 家で学習時間が少ないため、少しでも勉強をさせたいと願う親が多い。
- ・ 本人の意思で学習をしたいと考えている。

という結論に至った。

生徒のために始めた寺子屋だが、働く親が多く、帰宅後の生徒の生活が心配でも親が見守ることができないため、寺子屋で面倒を見てほしいという親の期待の大きさを痛感した。

生徒は何とか学習にはついていきたいが、なかなか質問をする機会もなく、ゆっくりと一人一人に向き合って学習する機会もないまま今に至っているため、じっくりと向き合うことのできる寺子屋での学習を楽しんでいる生徒も多かった。

また、習熟度別に学習をすることにより、しっかりと学習内容が定着し、だんだん学力が上がっ

できたことを実感する生徒もいた。

これらのことにより、子供たちや親の期待は大きく、寺子屋での学習が少しでも役に立ち成果となってくれていると感じている。

② 反省点

生徒の負担を考えた場合、授業後16時から19時の時間帯で3時間の授業を受けることはかなり負担となっていたと思う。

また、生徒によっては、必要性を感じない授業や自分の学習したい内容と異なる授業を強制的に受けさせることもあり、改善策を講じたいと思うことが多かった。

ルールに関しては、学校外で、ちょうどおなかもすく時間であり、飲食の問題やスマホの持ち込みに関するトラブルなどが少しあった。

③ 課題

講師不足が最大の課題である。再任用や退職年齢の引き上げ等で講師が不足し、やってくださる方も高齢化が顕著である。

④ 今後への発展性

講師不足やこれからの教育の在り方を踏まえ、講師が一歩的に授業を行う方法ではなく、子供の自主性を生かし、学校タブレット等を利用して行う自習形式の学習室を模索している。

教師が、必ず自習に付き添い、困っている生徒や何をやってよいかわからない生徒への指導をする方法で、来年度はやっていこうと考えている。

4 本活動におけるエピソード

- ・ 地域学校協働活動の一つとして、教育委員会や学校などと相談し立ち上げた活動であったが、開始直前になり、講師への謝金は出せないということが教育委員会から伝えられ、目の前が真っ暗になった。いろいろなところへ、相談をしたが費用を出してもらえるところはなく、本当に困り果てていた。講師は「もともとボランティアだから、謝金なんていらないよ。」と行ってくださったが、遠くからくる講師もいて、交通費、教材作成の費用やコピー代なども自分持ちとなってしまうといけないと思い、悩んだ時に、この財団の助成金を知って応募した。
- ・ 本当に、檜の芽会助成金の申請締切ぎりぎりの時に申し込みの書類を作成し、責任者に夜遅くきってもらったり、他のメンバーに協力を依頼しながら、申請書を作成したことを思い出す。
- ・ 申請した際、締切ぎりぎりだったため、本当は間に合わなかった申請書提出だが、檜の芽会の方が、「少し待ちますよ。」と丁寧に対応していただき、修正すべき事柄を指摘してくださったことが本当にありがたかった。

この助成金のおかげで、一年間良い活動ができました。本当に感謝の言葉しかありません。

昨年3月末に、やめようかと思った時もありましたが、実施することができて、よかったです。平成7年度は、教育委員会のご指導の下、もっと縮小をした活動にしていくことになりました。本当は残念なのですが、地域学校協働活動の枠の中で継続してできる方法で、やっていきます。1年間、本当にありがとうございました。